



TITLE:

# 直交型三重旗多様体の軌道分解の 一例 (表現論と調和解析における諸 問題)

AUTHOR(S):

松木, 敏彦

---

CITATION:

松木, 敏彦. 直交型三重旗多様体の軌道分解の一例 (表現論と調和解析  
における諸問題). 数理解析研究所講究録 2011, 1770: 119-130

ISSUE DATE:

2011-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/171659>

RIGHT:

## 直交型三重旗多様体の軌道分解の一例

龍谷大学文学部 松木敏彦 (Toshihiko Matsuki)  
Faculty of Letters, Ryukoku University

$G$  を体  $\mathbb{F}$  上の代数群とし、 $P_1, \dots, P_k$  を  $G$  の放物型部分群とする。このとき、次の多重旗多様体の  $G$ -軌道分解を考える。

$$\begin{aligned}\mathcal{M} &= (G/P_1) \times \cdots \times (G/P_k) \\ &\cong (G \times \cdots \times G)/(P_1 \times \cdots \times P_k)\end{aligned}$$

ただし、 $G$  は  $\mathcal{M}$  に対角的に作用するものとする。すなわち

$$g \cdot (m_1, \dots, m_k) = (gm_1, \dots, gm_k)$$

$\mathbb{F}$  が無限体のときに、 $\mathcal{M}$  が有限個の  $G$ -軌道に分解されるとき、 $\mathcal{M}$  は有限型であるという。

**注意 1** 写像  $(g_1, \dots, g_k) \mapsto (g_k^{-1}g_1, \dots, g_k^{-1}g_{k-1})$  により、この軌道分解は

$$(G/P_1) \times \cdots \times (G/P_{k-1})$$

の  $P_k$ -軌道分解と同一視できる。

**例 1** (Bruhat 分解)  $G$  が  $\mathbb{F}$  上 split するとき、注意 1 により、 $k=2$  の場合は Bruhat 分解

$$G = \bigsqcup_{w \in W_2 \setminus W/W_1} P_2 w P_1$$

に帰着する。ただし、 $G$  のボレル部分群  $B$  およびワイル群  $W$  によって

$$P_1 = \bigsqcup_{w \in W_1} BwB, \quad P_2 = \bigsqcup_{w \in W_2} BwB$$

( $W_1, W_2$  は  $W$  の部分群) とする。

**例 2**  $G = \mathrm{GL}_2(\mathbb{F})$ ,  $k=3$  のとき、

$$\mathcal{M} \cong \mathrm{P}^1(\mathbb{F}) \times \mathrm{P}^1(\mathbb{F}) \times \mathrm{P}^1(\mathbb{F})$$

であり、 $\mathcal{M}$  は 5 個の  $G$ -軌道に分解される (Fig.1)。ただし、右端の数は  $\mathbb{F}$  が  $q$  個の元からなる有限体  $\mathbb{F}_q$  のときに各軌道に含まれる元の数である。

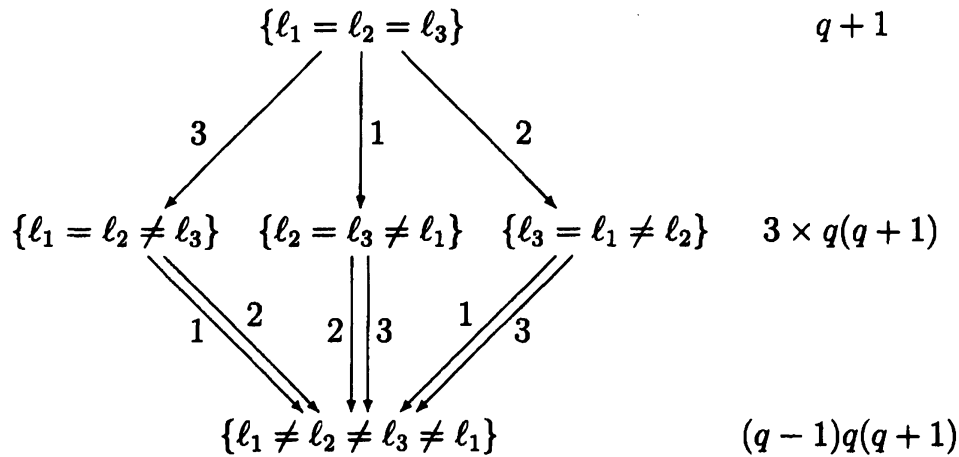


Fig.1.  $GL_2(\mathbb{F}) \backslash P^1(\mathbb{F}) \times P^1(\mathbb{F}) \times P^1(\mathbb{F})$  Total:  $(q+1)^3$

## 1 知られている結果

### 1.1 $GL_n$ -case

(Magyar-Weyman-Zelevinsky, 1999 [MWZ99])  $G = GL_n(\mathbb{F})$ ,  $\mathbb{F}$  は代数的閉体のとき、

1.  $k \geq 4 \implies \mathcal{M}$  は無限型。
2. 有限型の三重旗多様体を分類。
3. 有限型の三重旗多様体について、

$G$ -軌道  $\longleftrightarrow$  quiver の表現の indecomposables への分解

例2を含むいくつかの簡単な場合に、この結果を解説するのは非常に面白いが、別の機会にする。(注意：この結果は任意の体  $\mathbb{F}$  上で成り立つと思われる。)

### 1.2 $Sp_{2n}$ -case

(Magyar-Weyman-Zelevinsky, 2000 [MWZ00])  $G = Sp_{2n}(\mathbb{F})$ ,  $\mathbb{F}$  は代数的閉体のときに同じことを行なった。この場合、 $\mathbb{F}$  が代数的閉体であることは本質的である (1.4 節参照)。

### 1.3 Littelmann による spherical double cone の分類

Littelmann [L94] は開  $B$ -軌道を持つ二重旗多様体  $(G/P_1) \times (G/P_2)$  を分類した。ただし  $G$  は単純代数群、 $B$  は  $G$  の Borel 部分群、 $P_1, P_2$  は  $G$  の極

大放物型部分群とする。

このとき、 $\mathbb{F}$  が標数 0 の代数的閉体ならば、Brion-Vinberg の定理 ([B86],[V86]) により、 $(G/P_1) \times (G/P_2)$  上の  $B$ -軌道の数是有限である。

したがって、 $G$  が直交群または例外群のときに、Littelmann の分類表にある  $(G/P_1) \times (G/P_2)$  の  $B$ -軌道分解を具体的に記述するのは興味深い問題である。

## 1.4 柏原-Schapira の分解

$G = \mathrm{Sp}_{2n}(\mathbb{R})$ ,  $\mathcal{T} = (G/P) \times (G/P) \times (G/P)$  ただし  $P$  は  $G$  の Siegel 放物型部分群とする。このとき、 $\mathcal{T}$  の  $G$ -軌道分解は、柏原-Schapira の教科書 “Sheaves on Manifolds” (1990) の p.492 (exercise) に記述されている。すなわち、実  $2n$  次元 symplectic ベクトル空間における 3 個の Lagrangian 部分空間の配置の問題で、“Maslov index” が自然に定義されている。

また、同様の問題が [FMS04] および [CN06] で扱われている。

## 1.5 その他の研究

西山-落合 [NO11] は複素対称対  $(G, K)$  に対し、 $(G/P) \times (K/Q)$  の  $K$ -軌道分解を研究した。

橋本 [H04] は任意の体  $\mathbb{F}$  上で  $\mathrm{GL}_n(\mathbb{F})/B$  の  $B_{n-1}$ -軌道分解を記述した。ただし、 $B_{n-1}$  は  $\mathrm{GL}_{n-1}(\mathbb{F})$  の Borel 部分群である。 $P$  を  $(n-1, 1)$  型の極大放物型部分群とすると、 $(G/P) \times (G/B)$  上の開  $G$ -軌道は  $G/(B_{n-1} \times \mathbb{F}^\times)$  と表わせる。したがって、この軌道分解は  $(G/P) \times (G/B) \times (G/B)$  の  $G$ -軌道分解に open に埋め込まれる。

## 2 $M \times M \times M$ の $G$ -軌道分解

$\mathbb{F}$  を標数  $\neq 2$  の体とし、 $\mathbb{F}^{2n+1}$  上の対称双線形形式  $(,)$  を

$$(e_i, e_j) = \delta_{i, 2n+2-j}$$

で定義する。ただし、 $e_1, \dots, e_{2n+1}$  は  $\mathbb{F}^{2n+1}$  の標準基底である。このとき、 $2n+1$  次 split 特殊直交群  $G$  が

$$G = \{g \in \mathrm{SL}_{2n+1}(\mathbb{F}) \mid (gu, gv) = (u, v) \text{ for all } u, v \in \mathbb{F}^{2n+1}\}$$

で定義される。 $\mathbb{F}^{2n+1}$  の部分空間  $V$  は  $(V, V) = \{0\}$  かつ  $\dim V = n$  のとき、**maximally isotropic subspace** と呼ばれる。

$$M = \{V \mid V \text{ は } \mathbb{F}^{2n+1} \text{ の maximally isotropic subspace}\}$$

とおくと、 $M$  は  $G$  の等質空間となるので、 $U_0 = \mathbb{F}e_1 \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_n$ ,  $P = \{g \in G \mid gU_0 = U_0\}$  とおくことにより、

$$M = GU_0 \cong G/P$$

と表わせる。 $P$  は  $G$  の一つの極大放物型部分群である。

三重旗多様体  $\mathcal{T} = M \times M \times M$  を  $G$ -軌道分解しよう。

$d = 0, \dots, n$  に対し、 $U_d = \mathbb{F}e_1 \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{n-d} \oplus \mathbb{F}e_{n+2} \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{n+d+1}$  とおき、 $n$  の分割  $n = a + b + c_+ + c_0 + c_-$  に対し、

$$U_{(\alpha)} = \mathbb{F}e_1 \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_a, \quad U_{(\beta)} = \mathbb{F}e_{2n-a-b+2} \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{2n-a+1},$$

$$U_{(+)} = \mathbb{F}e_{a+b+1} \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{k_+}, \quad U_{(-)} = \mathbb{F}e_{n+2} \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{k_-},$$

$$U_{(0)} = \mathbb{F}e_{k_++1} \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{k_++c_0} \oplus \mathbb{F}e_{k_-+1} \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{k_-+c_0} \oplus \mathbb{F}e_{n+1}$$

と定義する。ただし、 $k_+ = a + b + c_+$ ,  $k_- = n + c_- + 1$  とする。さらに、 $W_{(0)} = U_{(\alpha)} \oplus U_{(\beta)} \oplus U_{(+)} \oplus U_{(-)}$  とおき、次の3種類の  $M$  の元を定義する。  
 $c_0 = 2c_1 - 1$  が奇数のとき、

$$\begin{aligned} V(a, b, c_+, c_-)_{\text{odd}} = & W_{(0)} \oplus \left( \bigoplus_{i=1}^{c_1-1} \mathbb{F}(e_{k_++i} + e_{k_-+i}) \right) \oplus \left( \bigoplus_{i=c_1+1}^{c_0} \mathbb{F}(e_{k_++i} - e_{k_-+i}) \right) \\ & \oplus \mathbb{F}(e_{k_++c_1} - \frac{1}{2}e_{k_-+c_1} + e_{n+1}) \end{aligned}$$

$c_0 = 2c_1$  が偶数のとき、

$$V(a, b, c_+, c_-)_{\text{even}}^0 = W_{(0)} \oplus \left( \bigoplus_{i=1}^{c_1} \mathbb{F}(e_{k_++i} + e_{k_-+i}) \right) \oplus \left( \bigoplus_{i=c_1+1}^{c_0} \mathbb{F}(e_{k_++i} - e_{k_-+i}) \right)$$

さらに、 $c_0 = 2c_1$  が正の偶数のとき、

$$\begin{aligned} V(a, b, c_+, c_-)_{\text{even}}^1 = & W_{(0)} \oplus \left( \bigoplus_{i=1}^{c_1} \mathbb{F}(e_{k_++i} + e_{k_-+i}) \right) \oplus \left( \bigoplus_{i=c_1+1}^{c_0-1} \mathbb{F}(e_{k_++i} - e_{k_-+i}) \right) \\ & \oplus \mathbb{F}(e_{k_++c_0} - e_{k_-+c_0} - \frac{1}{2}e_{k_-+1} + e_{n+1}) \end{aligned}$$

**定理 1**  $t = (V_{(1)}, V_{(2)}, V_{(3)}) \in \mathcal{T} = M \times M \times M$  に対し、

$$a = \dim(V_{(1)} \cap V_{(2)} \cap V_{(3)}), \quad b = \dim(V_{(1)} \cap V_{(2)}) - a,$$

$$c_+ = \dim(V_{(1)} \cap V_{(3)}) - a, \quad c_- = \dim(V_{(2)} \cap V_{(3)}) - a,$$

$$c_0 = n - a - b - c_+ - c_-, \quad \varepsilon = \dim(V_{(1)} + V_{(2)} + V_{(3)}) + a - 2n \in \{0, 1\},$$

$$d = n - a - b$$

とおくと、

- (i)  $c_0$  が奇数  $\implies \varepsilon = 1, t \in G(U_0, U_d, V(a, b, c_+, c_-)_{\text{odd}})$
- (ii)  $c_0 = 0 \implies \varepsilon = 0, t \in G(U_0, U_d, V(a, b, c_+, c_-)_{\text{even}}^0)$
- (iii)  $c_0$  が正の偶数  $\implies t \in G(U_0, U_d, V(a, b, c_+, c_-)_{\text{even}}^\varepsilon)$  with  $\varepsilon = 0$  or  $1$

系  $\eta_k = \begin{cases} 1 & \text{if } k = 0, 1, 3, 5, \dots, \\ 2 & \text{if } k = 2, 4, 6, \dots \end{cases}$  とおくと、

$$|G \backslash \mathcal{T}| = \sum_{k=0}^n \eta_k \binom{n+3-k}{3} = \begin{cases} \frac{(n+2)^4}{16} & (n \text{ 偶数}) \\ \frac{(n+2)^4-1}{16} & (n \text{ 奇数}) \end{cases}$$

(最後の等式は落合啓之による。)

$n = 1, 2, 3, 4$  のとき、軌道の数、

$n$	1	2	3	4
$ G \backslash \mathcal{T} $	5	16	39	81

定理 2  $\mathbb{F}$  が  $r$  個の元からなる有限体  $\mathbb{F}_r$  のとき、

$$|Gt| = |M| \frac{r^{(n-a)(n-a+1)/2} [r]_n}{[r]_a [r]_b [r]_{c_+} [r]_{c_-} [r]_{c_0}} \psi_{c_0}^\varepsilon(r).$$

ただし  $[r]_m = (r+1)(r^2+r+1)\cdots(r^{m-1}+r^{m-2}+\cdots+1)$ ,

$$\psi_{2k}^0(r) = \psi_{2k-1}^1(r) = \frac{\psi_{2k}^1(r)}{r^{2k}-1} = r^{k(k-1)}(r-1)(r^3-1)\cdots(r^{2k-1}-1).$$

注:  $\psi_{c_0}^\varepsilon(r) = |\text{GL}_{c_0}(\mathbb{F}_r)/H_{c_0}^\varepsilon|$  ただし

$$H_{c_0}^\varepsilon = \begin{cases} 1 \times \text{Sp}_{c_0-1}(\mathbb{F}_r) & (c_0 \text{ 奇数}), \\ \text{Sp}_{c_0}(\mathbb{F}_r) & (c_0 \text{ 偶数}, \varepsilon = 0), \\ Q_{c_0} = \{g \in \text{Sp}_{c_0}(\mathbb{F}_r) \mid gv = v\} & (c_0 \text{ 偶数}, \varepsilon = 1) \end{cases}$$

( $0 \neq v \in \mathbb{F}_r^{c_0}$ )

### 3 $M \times M \times M_0$ の $G$ -軌道分解

さらに  $G$  の full flag variety

$$M_0 = \{V_1 \subset \cdots \subset V_n \mid \dim V_i = i, (V_n, V_n) = \{0\}\} \cong G/B$$

を考え、三重旗多様体  $\mathcal{T}_0 = M \times M \times M_0$  を  $G$ -軌道分解しよう。

**注意 2**  $\dim M + \dim M + \dim M_0 = \frac{n(n+1)}{2} + \frac{n(n+1)}{2} + n^2 = n(2n+1) = \dim G$ .  
すなわち、 $\mathcal{T}_0$  は  $G$ -開軌道が存在しうる最大次元を持つ。この場合、開軌道の存在は [L94] (Table 1) によって示されている。

定理 1 により  $t = (U_0, U_d, V) \in \mathcal{T}$ ,  $V = V(a, b, c_+, c_-)_{\text{odd}}$ ,  $V(a, b, c_+, c_-)_{\text{even}}^0$  or  $V(a, b, c_+, c_-)_{\text{even}}^1$  を固定してよい。 $\pi : \mathcal{T}_0 \rightarrow \mathcal{T}$  が自然な射影  $M_0 \rightarrow M$  によって定まる。 $\pi^{-1}(t)$  は

$$M_0(V) = \{V_1 \subset \cdots \subset V_n \mid V_n = V\}$$

と同一視できるので、 $M_0(V)$  上の  $R(t) = P \cap P_{U_d} \cap P_V$  による軌道分解を記述すればよい。

**定義**  $M_0(V)$  の full flag  $\mathcal{F} : V_1 \subset \cdots \subset V_n$  が次の条件を満たすとき、**standard** であるという。

$$V_i = (V_i \cap U_{(\alpha)}) \oplus (V_i \cap U_{(\beta)}) \oplus (V_i \cap (U_{(+)} \oplus U_{(-)})) \oplus (V_i \cap U_{(0)}),$$

$$V_i \cap U_{(\alpha)} = \mathbb{F}e_1 \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{a_i(\mathcal{F})},$$

$$V_i \cap U_{(\beta)} = \mathbb{F}e_{2n-a-b+2} \oplus \cdots \oplus \mathbb{F}e_{2n-a-b+1+b_i(\mathcal{F})}$$

for all  $i = 1, \dots, n$ . ただし、 $a_i(\mathcal{F}) = \dim(V_i \cap U_{(\alpha)})$ ,  $b_i(\mathcal{F}) = \dim(V_i \cap U_{(\beta)})$  とする。

standard full flag  $\mathcal{F} : V_1 \subset \cdots \subset V_n$  に対し、 $c_i(\mathcal{F}) = \dim(V_i \cap (U_{(+)} \oplus U_{(-)}))$ ,  $d_i(\mathcal{F}) = \dim(V_i \cap U_{(0)})$  とおき、 $I = \{1, \dots, n\}$  の部分集合

$$I_{(\alpha)} = \{\alpha_1, \dots, \alpha_a\} = \{i \in I \mid a_i(\mathcal{F}) = a_{i-1}(\mathcal{F}) + 1\},$$

$$I_{(\beta)} = \{\beta_1, \dots, \beta_b\} = \{i \in I \mid b_i(\mathcal{F}) = b_{i-1}(\mathcal{F}) + 1\},$$

$$I_{(\gamma)} = \{\gamma_1, \dots, \gamma_c\} = \{i \in I \mid c_i(\mathcal{F}) = c_{i-1}(\mathcal{F}) + 1\},$$

$$I_{(\delta)} = \{\delta_1, \dots, \delta_{c_0}\} = \{i \in I \mid d_i(\mathcal{F}) = d_{i-1}(\mathcal{F}) + 1\}$$

を定義する。ただし、 $c = c_+ + c_-$ ,  $\alpha_1 < \cdots < \alpha_a$ ,  $\beta_1 < \cdots < \beta_b$ ,  $\gamma_1 < \cdots < \gamma_c$ ,  $\delta_1 < \cdots < \delta_{c_0}$  とする。このとき、 $I = I_{(\alpha)} \sqcup I_{(\beta)} \sqcup I_{(\gamma)} \sqcup I_{(\delta)}$  であり、 $I$  の置換  $\tau(\mathcal{F})$  が

$$\tau(\mathcal{F}) : (12 \cdots n) \mapsto (\alpha_1 \cdots \alpha_a \gamma_1 \cdots \gamma_c \delta_1 \cdots \delta_{c_0} \beta_1 \cdots \beta_b)$$

によって定義できる。 $\tau(\mathcal{F})$  の転倒数を  $\ell(\tau(\mathcal{F}))$  とする。

$X \in \text{GL}_n(\mathbb{F})$  に対し、

$$h[X] = \begin{pmatrix} X & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & J^t X^{-1} J \end{pmatrix}, \quad J = J_n = \begin{pmatrix} 0 & & 1 \\ & \ddots & \\ 1 & & 0 \end{pmatrix}$$

とし、 $A \in \mathrm{GL}_{c_+}(\mathbb{F})$ ,  $B \in \mathrm{GL}_{c_0}(\mathbb{F})$ ,  $C \in \mathrm{GL}_{c_-}(\mathbb{F})$  に対し、

$$\ell(A, B, C) = h \left[ \begin{pmatrix} I_{a+b} & 0 & 0 & 0 \\ 0 & A & 0 & 0 \\ 0 & 0 & B & 0 \\ 0 & 0 & 0 & C \end{pmatrix} \right]$$

とする。

$G$  の部分群  $L_+$ ,  $L_0$ ,  $L_-$ ,  $L$ ,  $L_V$  を

$$L_+ = \{\ell(A, I_{c_0}, I_{c_-}) \mid A \in \mathrm{GL}_{c_+}(\mathbb{F})\},$$

$$L_0 = \{\ell(I_{c_+}, B, I_{c_-}) \mid B \in \mathrm{GL}_{c_0}(\mathbb{F})\},$$

$$L_- = \{\ell(I_{c_+}, I_{c_0}, C) \mid C \in \mathrm{GL}_{c_-}(\mathbb{F})\},$$

$L = L_+ \times L_0 \times L_-$ ,  $L_V = \{\ell \in L \mid \ell V = V\}$  と定義する。

**命題** (i)  $L_V = L_+ \times (L_V \cap L_0) \times L_-$ .

(ii)  $V = V(a, b, c_+, c_-)_{\text{odd}} \implies L_V \cap L_0 \cong 1 \times \mathrm{Sp}_{c_0-1}(\mathbb{F})$ ,

$V = V(a, b, c_+, c_-)_{\text{even}}^0 \implies L_V \cap L_0 \cong \mathrm{Sp}_{c_0}(\mathbb{F})$ ,

$V = V(a, b, c_+, c_-)_{\text{even}}^1 \implies L_V \cap L_0 \cong Q_{c_0}$ .

ただし、 $Q_{c_0} = \{g \in \mathrm{Sp}_{c_0}(\mathbb{F}) \mid gv = v\}$  with some  $v \in \mathbb{F}^{c_0} - \{0\}$ .

**定理 3** (i) 任意の  $M_0(V)$  の full flag  $\mathcal{F}$  に対し、 $g\mathcal{F}$  が standard になるような  $g \in R(t) = P \cap P_{U_d} \cap P_V$  が存在する。

(ii)  $\mathcal{F}$  と  $\mathcal{F}'$  がともに standard full flag のとき、 $g\mathcal{F} = \mathcal{F}'$  for some  $g \in R(t) \implies g_L\mathcal{F} = \mathcal{F}'$  for some  $g_L \in L_V$ .

(iii)  $\mathbb{F} = \mathbb{F}_r$  のとき、standard full flag  $\mathcal{F}$  に対し、 $|R(t)\mathcal{F}| = [r]_a[r]_b r^{\ell(\tau(\mathcal{F}))} |L_V\mathcal{F}|$ .

命題と定理 3 により、問題は次の 4 種類の部分群  $H$  による  $\mathrm{GL}_n(\mathbb{F})/B$  の軌道分解に帰着する。

(A)  $H = \mathrm{GL}_{m_+}(\mathbb{F}) \times \mathrm{GL}_{m_-}(\mathbb{F})$  where  $m_+ + m_- = n$ ,

(B)  $H = \mathrm{Sp}_n(\mathbb{F})$  for even  $n$ ,

(C)  $H = Q_n$  for even  $n$ ,

(D)  $H = 1 \times \mathrm{Sp}_{n-1}(\mathbb{F})$  for odd  $n$ .

注意：(A)~(D) については  $\mathrm{char} \mathbb{F} \neq 2$  の条件は不要である。

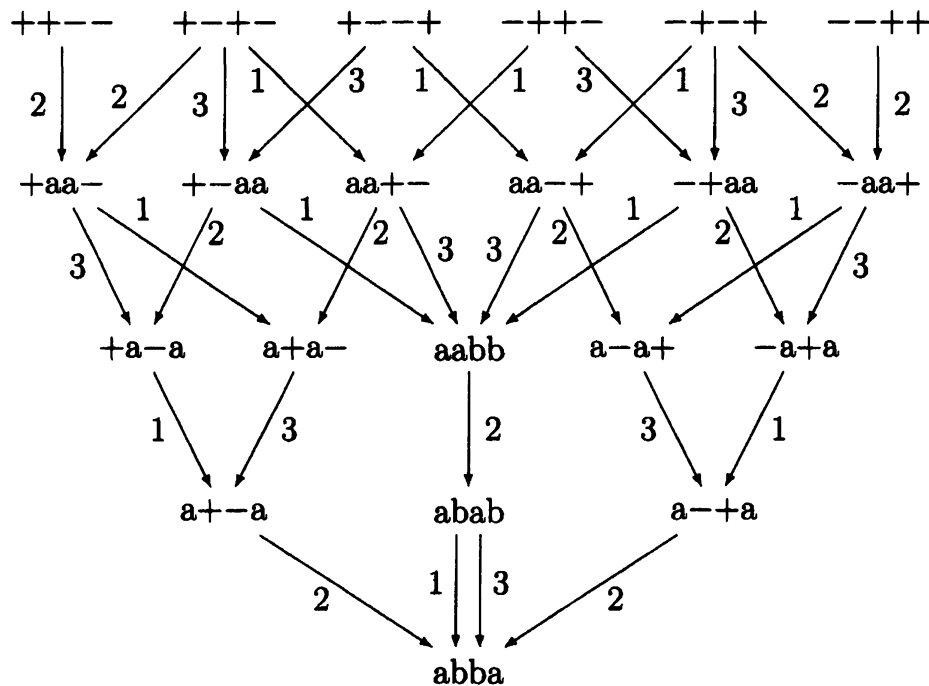


## 4 $GL_n(\mathbb{F})/B$ の $H$ -軌道分解

$\mathbb{F} = \mathbb{C}$  の場合、(A), (B) の  $H$  は  $G = GL_n(\mathbb{F})$  の対称部分群であるので、軌道分解は [M79], [R79] によって得られている。[M10] では任意の体  $\mathbb{F}$  上で同じ軌道分解ができることを示した。さらに、(C) の軌道分解も得られ、(D) は (C) に帰着することも示した。本稿では  $n$  が小さいときの軌道構造の図式を紹介する。詳細は [M10] を参照されたい。

(A)  $GL_{m_+}(\mathbb{F}) \times GL_{m_-}(\mathbb{F}) \backslash GL_n(\mathbb{F})/B$

軌道構造は “+-ab”-図式で表わせる。 $n = 4$ ,  $m_+ = m_- = 2$  のときは次の図のようになる (Fig.5 in [MO90])。



記号の説明： $i = 1, \dots, n-1$  に対し、 $\dim M_i = \dim M_0 - 1$  となる部分旗多様体

$$M_i = \{V_1 \subset \cdots \subset V_{i-1} \subset V_{i+1} \subset \cdots \subset V_{n-1} \mid \dim V_j = j\}$$

と自然な射影  $p_i : M_0 \rightarrow M_i$  を定義する。このとき、2つの  $H$ -軌道  $S_1, S_2$  に対し、

$$p_i(S_1) = p_i(S_2), \quad \dim S_1 + 1 = \dim S_2$$

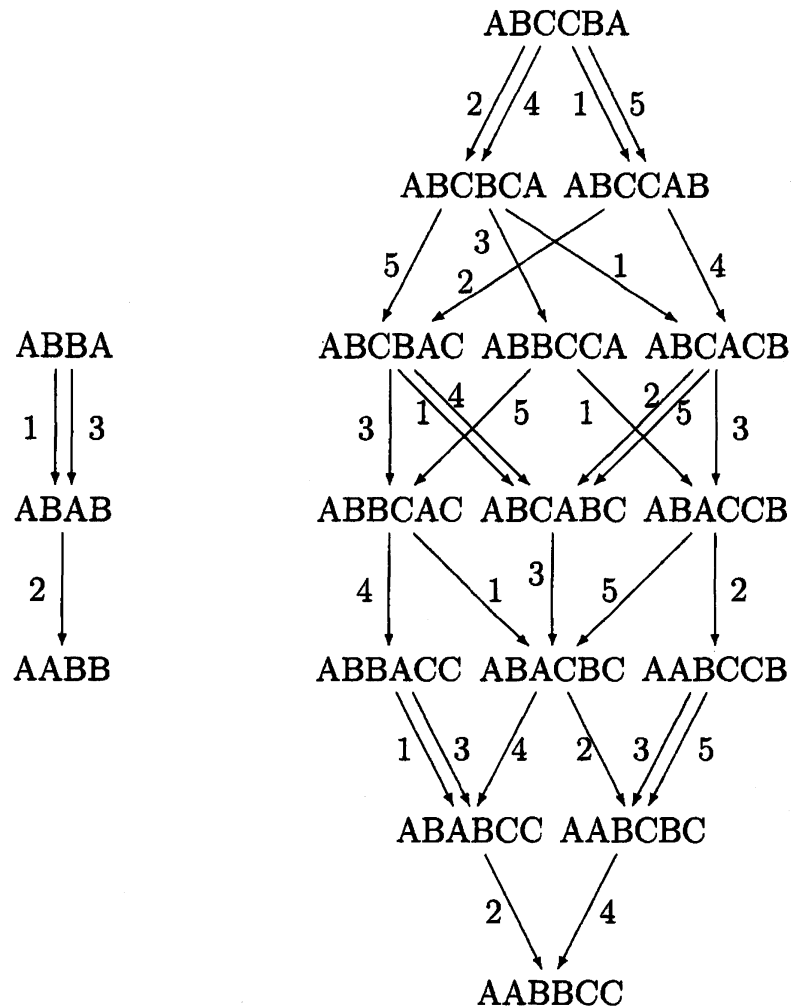
が成り立つ場合に、

$$S_1 \xrightarrow{i} S_2$$

と表示する。

(B)  $\mathrm{Sp}_{2n}(\mathbb{F}) \backslash \mathrm{GL}_{2n}(\mathbb{F}) / B$

軌道構造は “AB”-図式で表わせる。  $n = 2, 3$  のときは次の図のようになる (Fig.3 and Fig.4 in [MO90])。



(C)  $Q_{2n} \backslash \mathrm{GL}_{2n}(\mathbb{F}) / B$

軌道構造は “ABXY”-図式で表わせる。  $n = 2$  のときは次の図のようになる (詳細は [M10])。



## References

- [B86] M. Brion, *Quelques propriétés des espaces homogènes sphériques*, Manuscripta Math. **55** (1986), 191–198.
- [CN06] J.-P. Clerc and K.-H. Neeb, *Orbits of triples in the Shilov boundary of a bounded symmetric domain*, Transform. Groups. **11** (2006), 387–426.
- [FMS04] E. Falbel, J.-P. Marco and F. Schaffhauser, *Classifying triples of Lagrangians in a Hermitian vector space*, Topology Appl. **144** (2004), 1–27.
- [H04] T. Hashimoto,  $B_{n-1}$ -orbits on the flag variety  $GL_n/B_n$ , Geom. Dedicata **105** (2004), 13–27.
- [KS90] M. Kashiwara and P. Schapira, *Sheaves on manifolds*, Grundlehren der Mathematische Wissenschaften, Vol. 292, Springer-Verlag, New York, 1990.
- [L94] P. Littelmann, *On spherical double cones*, J. Alg. **166** (1994), 142–157.
- [MWZ99] P. Magyar, J. Weyman and A. Zelevinsky, *Multiple flag varieties of finite type*, Adv. Math. **141** (1999), 97–118.
- [MWZ00] P. Magyar, J. Weyman and A. Zelevinsky, *Symplectic multiple flag varieties of finite type*, J. Alg. **230** (2000), 245–265.
- [M79] T. Matsuki, *The orbits of affine symmetric spaces under the action of minimal parabolic subgroups*, J. Math. Soc. Japan **31** (1979), 331–357.
- [M10] T. Matsuki, *An example of orthogonal triple flag variety of finite type*, arXiv: 1011.6468.
- [MO90] T. Matsuki and T. Oshima, *Embeddings of discrete series into principal series*. In The Orbit Method in Representation Theory, Birkhäuser, 1990, 147–175.
- [NO11] K. Nishiyama and H. Ochiai, *Double flag varieties for a symmetric pair and finiteness of orbits*, J. of Lie Theory **21** (2011), 79–99.
- [R79] W. Rossmann, *The structure of semisimple symmetric spaces*, Canad. J. Math. **31** (1979), 157–180.

- [V86] E. B. Vinberg, *Complexity of action of reductive groups*, *Funct. Anal. Appl.* **20** (1986), 1–11.